

英文の要点をまとめて書くためのトレーニング方法の工夫  
- Q & A とフォーマットの活用 -

立 高等学校

## 1 研究の背景と目的

聞くこと、話すこと、読むこと及び書くことの4領域を、外国語の各科目やその内容、目的に沿ってバランスよく学ぶことができるように授業を組み立てることが重要である。しかし、実際には、授業進度や、指導計画に十分時間をかけられないなどの要因によって、4領域のバランスがとれた授業を展開できていないケースが多い。また、授業が単語の意味を知り、構文や本文の内容を理解することに終始しているということも否めない。

これまでの授業に、英文の要点を捉えて要約文を書くという活動を加えることができれば、「『書く』ことを考えながら『読む』」という、コミュニケーションにつながる授業が展開できるのではないだろうか。そうすれば、英語に対して苦手意識を持つ生徒、わからないとあきらめてしまう生徒を、教科としてではなく言語として英語を学び、自分の考えを話したり書いたりすることに向かわせることができるのではないかと考えた。

本研究では、要約文を書くことを目標とし、読み取った内容の要点をまとめ、自分の言葉で書くためには、どのように要点を捉え、考えを組み立てながら読んだり、書いたりするのがいいのか、その力を育てるにはどのようなトレーニング方法があるのかを探ることとする。

## 2 研究仮説

- (1) 仮説1 英文の要点を捉えるために質問を与えるなど、内容を整理するための工夫をすれば、文章の概要を捉える力をつけることができるであろう。

英文を読み、要点をまとめるといっても、多くの生徒は単に文を抜き出して、内容やつながりを考えずに書くにとどまっている。教師が用意した要点を捉えるための質問に答えたり読み取った内容を図にまとめて視覚的な効果を利用することによって、英文の要点を把握できるようになるのではないかと考える。

- (2) 仮説2 要点が把握できている文章であれば、ライティングのフォーマットを与えることで、要約文を書くことができるであろう。

英文の要点を把握しても、何を、どのような順序で書くのかを理解していなければ、まとめた文章を書くことはできない。主題文、支持文、結論文というライティングのフォーマットを与えることで、要約文が書けるようになるものと考ええる。

## 3 研究方法・内容

- (1) 事前調査

- ア 生徒の意識調査
- イ 短文の並べ替え問題による誤答分析
- ウ 例文を用いた英作文による誤答分析

## (2) 授業実践

- ア 第1ステップ：自己紹介文を書く
- イ 第2ステップ：英文の要点をまとめて書く  
特段の指導を受けずに要約文を書く。
- ウ 第3ステップ：英文の要点をまとめて書く  
要点を捉えるための質問に答えた後，ライティングのフォーマットを用いて要約文を書く。
- エ 第4ステップ：英文の要点をまとめて書く  
自分の考えを図にまとめた後，ライティングのフォーマットを用いて要約文を書く。

## (3) 検証

- ア 英文の要点を捉えた要約文が書けているか
- イ ライティングのフォーマットに沿った要約文が書けているか
- ウ 自己評価

## 4 研究計画

期間	平成19年6月～平成20年11月		
段階	第1段階 (平成19年6月～9月)	第2段階 (平成19年10月～平成20年3月)	第3段階 (平成20年4月～11月)
研究内容 と方法	(1) 先行研究 文献調査 (2) 事前調査1 生徒意識調査	(1) 事前調査2 英文構造の理解度の 調査 ア 短文の並べ替え問題 による誤答分析 イ 例文を用いた英作文 による誤答分析 (2) 図にまとめて内容を理 解する基礎的なトレー ニング	(1) 第1ステップ 自己紹介文を書く (2) 第2ステップ 英文の要点をまとめ て書く (3) 第3ステップ 英文の要点をまとめ て書く (4) 第4ステップ 英文の要点をまとめ て書く (5) 検証
使用 教材		「リーディング」教科書	「リーディング」教科書

## 5 研究実践

( 1 ) 対象

年度	生徒	科目	単位	使用教科書
平成 1 9 年度	普通科 3 年 1 クラス 3 8 名	リーディング	5	Vivid Reading ( 第一学習社 )
平成 2 0 年度	普通科 3 年 1 クラス 4 0 名	リーディング	5	Vivid Reading NEW EDITION ( 第一学習社 )

( 2 ) 事前調査

ア 英語に対する意識調査 ( 平成 1 9 年 9 月 )

( ア ) 質問紙による英語に対する意識調査 ( 4 領域の学習に関する質問 )

( イ ) 結果

	好き	どちらかと言え ば好き	どちらかと言え ば苦手	苦手
英語は好きか？	6 %	8 %	3 6 %	5 0 %
英語を聞くことは好きか？	8 %	2 8 %	3 3 %	3 1 %
英語を話すことは好きか？	6 %	2 2 %	3 3 %	3 9 %
英語を読むことは好きか？	3 %	2 8 %	2 8 %	4 1 %
英語を書くことは好きか？	8 %	3 9 %	5 3 %	0 %
英語で 1 番苦手な分野は？	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
	8 %	2 5 %	6 %	6 1 %

意識調査の結果から、英語に対して「どちらかと言えば苦手・苦手」と感じている生徒が約 9 割いる。4 領域の中で生徒が 1 番苦手な領域は「書くこと」である。その一方、書くことが「好き・どちらかと言えば好き」と「どちらかと言えば苦手」はほぼ同数である。

トピックを与えて英文を書いた後の「英語を 6 年間も勉強してきたのに言いたいことが上手に表現できなかった」「もっと英語を勉強して表現してみたい」というコメントから、自分の考えを、自分の言葉で表現したいという気持ちが強く読み取れる。

なぜ書くことが苦手であるかについて、生徒のコメントから二つの課題が見えてきた。一つ目は、「単語や文法がわからない」という、英語の知識に関することであった。二つ目は、「どのように自分の考えをまとめていいのかわからない」という、文章構成に関することであった。これらの課題を解決するためには、書くトレーニングが必要であることがわかった。

イ 英文構造の理解度の調査

( ア ) 短文の並べ替え問題による誤答分析

調査に用いた英文：“ I have never been to Galapagos. ”

( イ ) 結果

このレベルの並べ替えの問題に関しては、あまり苦手意識のない生徒が多い ( 3 7 名中 3 1 名正解 )。誤答としては、副詞 ( never ) の位置を間違えた ( 5 名 )、現在完了形 ( have + 過去分詞 ) を間違えた ( 1 名 ) などの例があった。

( ウ ) 例文を用いた英作文による誤答分析

調査に用いた英文：(ア) で使用した英文を利用し，「東京ディズニーランドへ行ったことがある」という文に，回数を付け加えた文。

(エ) 結果

元の英文に回数を付け加えずに書いた生徒が 5 名いた。誤答としては，回数を表すために不要な前置詞を使用した，簡単なつづりの誤り，have を had にしたなど，意味の伝達に支障をきたす間違いが多かった。完全な正解は 7 名のみであった。

(3) 授業実践

ア 第 1 ステップ：自己紹介文を書く

(ア) 手順

- a 自己紹介文を書く ( 1 時間 )
- b 特段の指導を受けることなく，自由に書く。

(イ) 評価

文の数と語の数によって評価をする。

(ウ) 評価の例

生徒自己紹介文

My name is _____. I live in Sakura. My hobby is play basketball. My favorite subject is P.E. A graduate from Sakura Higashi junior high school. ( 5 文・26 語 )
My name is _____. I hobby is shopping. I favorite subject is English. I am very partial to sweets. ( 4 文・19 語 )

(エ) 評価の集計：生徒が書いた文の数と人数 ( % )

文数	10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1
%	3	5	5	8	8	21	32	13	5	0

(オ) 考察

「オーラル・コミュニケーション」で自己紹介を扱ったことがあったため，平均で 5 文，28 語の自己紹介文を書くことができた。語数が最も多かった生徒は 9 文・67 語，最も少なかった生徒は 2 文・10 語であった。自己紹介なので，最初に伝えるべき情報として生徒が考えたのは名前であり，次に趣味や出身中学校などが多かった。

生徒のコメントには「時間が足りない」「難しかった」という内容が多かった。「難しい」という意味には，英語の知識の面と，どのような情報をどの順番で述べればよいのかわからないという，内容や文章構成に関する面の 2 面があるようだった。平成 19 年度の意識調査においても同じ傾向がみられたため，有用表現やコモン・エラーを提示したり，一般動詞，be 動詞，主語 + 述語動詞の語順などについての指導を加えた。

第 1 ステップでは，多くの生徒が「英文を書くことは難しい」と感じている反面，「もっと自分の言葉で表現したい」「もっと頑張りたい」「コメントをもらってうれしかった」と思っていることがわかり，英語で書く力を育てるトレーニングによって生徒の英語力の伸びが期待できるとの確信を得た。

イ 第 2 ステップ：英文の要点をまとめて書く

(ア) 手順

- a 教科書の内容を把握した後，要約文を書く（１時間）。
- b 要点のとらえ方などについて特段の指導はせず，各自が要点だと思う内容をまとめて書くように指示する。

（イ）評価

あらかじめ決めておいた要点のうち，いくつかの要点を捉えて要約文に書いているのかを数え，要点の捕捉率として評価する。その際，語彙，文法上の誤りにはさほど注意を向けないこととする。

（ウ）評価の例

a 生徒要約文

題材には “ Unit 1 Get Ready 4 Martin Luther King Jr. ” を用いた。

<i>People should be judged not “by the color of their skin but by the content of their character.”</i>
<i>He disliked violence and taught his congregation that they would win the war against prejudice with love, not hate.</i>
His “I Have a Dream” speech is best speeches.

b 評価方法

評価に用いる要点には，第３ステップ実践１の「要点を捉えるための質問」を用いる。

評価規準とした要点	要点の有無
(a) Who said, “People should be judged not by the color of their skin but by the content of their character”?	×
(b) Did he do many activities against prejudice in America?	×
(c) What did he teach in a church?	
(d) What is the title of his speech?	
(e) Where did he travel?	×
(f) Who did he help in the South?	×
(g) What did he do in Washington, D.C.?	×
(h) Do you respect him?	×
合 計	2

（エ）評価の集計：要点の捕捉率（％）

捕捉率	8/8	7/8	6/8	5/8	4/8	3/8	2/8	1/8	0/8
％	0	0	0	10	3	30	32	19	6

（オ）考察

集計の結果，要点の捕捉率は平均 1.8 個だった。約半数の生徒が二つあるいは三つの要点しか捉えられず，そのうちの一つは主題文を書いているので，内容を整理して要点をまとめたとは言えなかった。また，上記「生徒要約文」のうち，3 文中 2 文が教科書からの抜き出し（イタリックの部分）であった。

ウ 第３ステップ：英文の要点をまとめて書く

第３ステップでは，要点を捉えるための質問を用い，ライティングのフォーマットに沿って要約文を書く。

ここでは、まず、第2ステップと同じ題材について、要点を捉えるための質問に答えることで生徒の要約文の内容が向上することを示す実践(実践1)、さらに別の題材を用いて内容を把握した後、すぐに要点を捉えるための質問に答えて要点をまとめる実践(実践2)について述べる。

(ア) 実践1

a 手順

- (a) 教科書の内容を把握した後、要約文を書く(1時間)。
- (b) 要点を捉えるための質問に答えて要点をまとめる。
- (c) ライティングのフォーマットとして要点を整理して述べるための言葉(first, second, third [lastly])を用いて書く方法を指導する。

b 評価

あらかじめ決めておいた要点のうち、いくつの要点を捉えて要約文に書いているのかを数え、要点の捕捉率として評価する。その際、語彙、文法上の誤りにはさほど注意を向けないこととする。

c 評価の例

(a) 生徒要約文

題材には“Unit 1 Get Ready 4 Martin Luther King Jr.”を用いた。

*King said, “People should be judged not by the color of their skin but by the content of their character.”*

*He did many activities against prejudice in America. First, He taught his congregation that they would win the war against prejudice with love, not hate, for pastor. Second, His “I Have a Dream” speech is best speeches. Lastly, He worked a group leader. He traveled in South helping to vote, and he led a huge march on Washington. He succeeded and he became hero.*

(b) 評価方法

評価に用いる要点には、「要点を捉えるための質問」を用いる。

評価規準とした要点	要点の有無
(a) Who said, “People should be judged not by the color of their skin but by the content of their character”?	
(b) Did he do many activities against prejudice in America?	
(c) What did he teach in a church?	
(d) What is the title of his speech?	
(e) Where did he travel?	
(f) Who did he help in the South?	×
(g) What did he do in Washington, D.C.?	
(h) Do you respect him?	
合 計	7

d 評価の集計：要点の捕捉率(%)

捕捉率	8/8	7/8	6/8	5/8	4/8	3/8	2/8	1/8	0/8
%	19	19	19	6	9	13	13	0	2

e 考察

集計の結果、要点の捕捉率は平均 4.2 個だった。第 2 ステップと比べ、2.4 ポイント上昇している。要点を捉えるための質問に答えることにより、文章の概要をとらえて要点をまとめることができたと考えられる。また、質問があることにより、教科書から英文を抜き出すだけでなく、自分の言葉でまとめることができるようになっており、文法上の誤りも減っている。また、要点を整理するためのフォーマット( first, second, third [lastly] ) も使用している。イタリックの部分が、要点を捉えるための質問によって導かれた要約文である。

(イ) 実践 2

a 手順

- ( a ) 教科書の内容を把握した後、要約文を書く ( 2 時間 )。
- ( b ) 要点を捉えるための質問に答え、要点をまとめて書くように指示する。
- ( c ) 1 レッスン 4 パートに渡って実践し、要点を捉えるための質問は合計 29 問 ( Part 1 で 8 問、Part 2 で 5 問、Part 3 で 10 問、Part 4 で 6 問 ) とする。
- ( d ) 段落を意識するように指示する。

b 評価

あらかじめ決めておいた要点のうち、いくつかの要点を捉えて要約文に書いているのかを数え、要点の捕捉率として評価する。その際、語彙、文法上の誤りにはさほど注意を向けないこととする。

c 評価の例

( a ) 生徒要約文

題材は “ Unit 2 Lesson 1 The Secrets of a Very Long Life ” を用いた。

Part 1

There are several places in which people can live a long time in the world. There places are far away from modern cities. It bring to the modern world the secrets of longevity.

*Hunza is first example.* They are many people over hundred years of age. Hunza have these three advantage. (1) physical work (2) a healthy environment (3) a simple diet

Part 2

*Second example is Caucasus.* It is usually difficult to find birth records. A man probably lived until 168. His wife was 120 years old. They are almost never sick, and when they die, they have not only their own teeth but also a full head of hair, and good eyesight.

*3<sup>rd</sup> example is Vilcabamba.* It is another area is famous of the longevity of its people.

Part 3

Mainly raw vegetables, fruit and chapattis in Hunza.

The Caucasian are mainly of milk, cheese, vegetables, and fruit and meat: most people there drink red wine daily.

In Vilcabamba, people eat a small amount of meat each week, but the diet consists largely of grain, corn, beans, potatoes, and fruit. *In brief similarities in three areas they eat vegetables and fruit.*

#### Part 4

The three areas have more in common. They live in the countryside and mostly farmers, their lives are physically hard. Thus, they do not need to go to health clubs. The people in three areas do not seem to have the worries of city people.

Consequently, some experts believe that physical exercise and freedom from worry might be the two most important secrets of longevity.

#### (b) 評価方法

評価規準	
(a) 主題文の有無	
(b) first を使用し, 長寿で有名な場所とその特徴の説明	
(c) second を使用し, 長寿で有名な場所とその特徴の説明	
(d) third [lastly]を使用し, 長寿で有名な場所とその特徴の説明	
(e) 3 か所の相違点	
(f) 3 か所の類似点	×
(g) 3 か所の共通点	
(h) 結論文の有無	
合 計	7

#### (c) 評価の集計: 要点の捕捉率 (%)

捕捉率	8/8	7/8	6/8	5/8	4/8	3/8	2/8	1/8	0/8
%	5 8	4	4	4	1 8	8	4	0	0

#### (d) 考察

集計の結果, 要点の捕捉率は平均 6 . 3 個であった。生徒の要約文の中には, 主題文と例示とを区別して段落構成ができたものや, ライティングのフォーマットを用いて要点(相違点・類似点など)を説明しているものもあり, 要約文全体の構成や段落を意識していることがわかる。また, 質問に導かれて理解を深め, 自分の言葉で整理して書いていることもわかる。

### エ 第4ステップ: 英文の要点をまとめて書く

#### (ア) 手順

- 題材には「アメリカ人はペットの犬が大好きである」という内容の英文を用いた。構成は, 主題, 意見, 例示, 結論となっている。
- 図1を利用して英文の構成を整理して, 内容を把握する。
- ライティングのフォーマットを定着させるために, 主題文を「人は猫が好きである」に変える。



- d 図1と同様の図を用いて、自分の考えを整理して意見をまとめ、教科書の英文を参考にしながら要約文を書いて提出する。
- e 教師は生徒の要約文のコモン・エラーや、他の生徒の参考になりそうな表現などを提示したり、フォーマットについての説明を加えたりして、フィードバックする。
- f 生徒は教師のフィードバックに基づいて書き直し、再提出する。

(イ) 評価

主題文、支持文、結論文という指示されたフォーマットに従っているかについて評価する。その際、語彙、文法上の誤りにはさほど注意を向けないこととする。

(ウ) 評価の例

a 生徒要約文

生徒 A

People love their pet cats. It is two reasons.  
First of all, it is easy to keep cats than dogs. Because cats come home by themselves. So they do not have to take cats to a walk. And they are quiet animals. So It is easy to keep in apartment house.  
Second, cats are cute. For example, live in the house as pet cats. I feel at ease when I was tired.  
In brief, pet cats are a hear animal, so people love their pet cats.

生徒 B

People love their pet cat.  
 There is three reasons.  
First, cats are very cute, so people long time with pet cats.  
Second, they don't big body, so people keep in house very easy.  
Three, people give various cats. For example, people give cat expensive toy and food.  
In brief, people give many love so people love their pet cat.

b 評価方法

評価規準	生徒 A	生徒 B
(a) 主題文の有無		
(b) 支持する考えが2つあることを述べているか		
(c) first を使用しているか		
(d) 1つめの考えを支持する情報があるか		
(e) second を使用しているか		
(f) 2つめの考えを支持する情報があるか		
(g) 結論文の有無		
合 計	7	7

(エ) 評価の集計：評価規準の捕捉率（％）

捕捉率	7/7	6/7	5/7	4/7	3/7	2/7	1/7	0/7
％	35	44	3	15	3	0	0	0

(オ) 考察

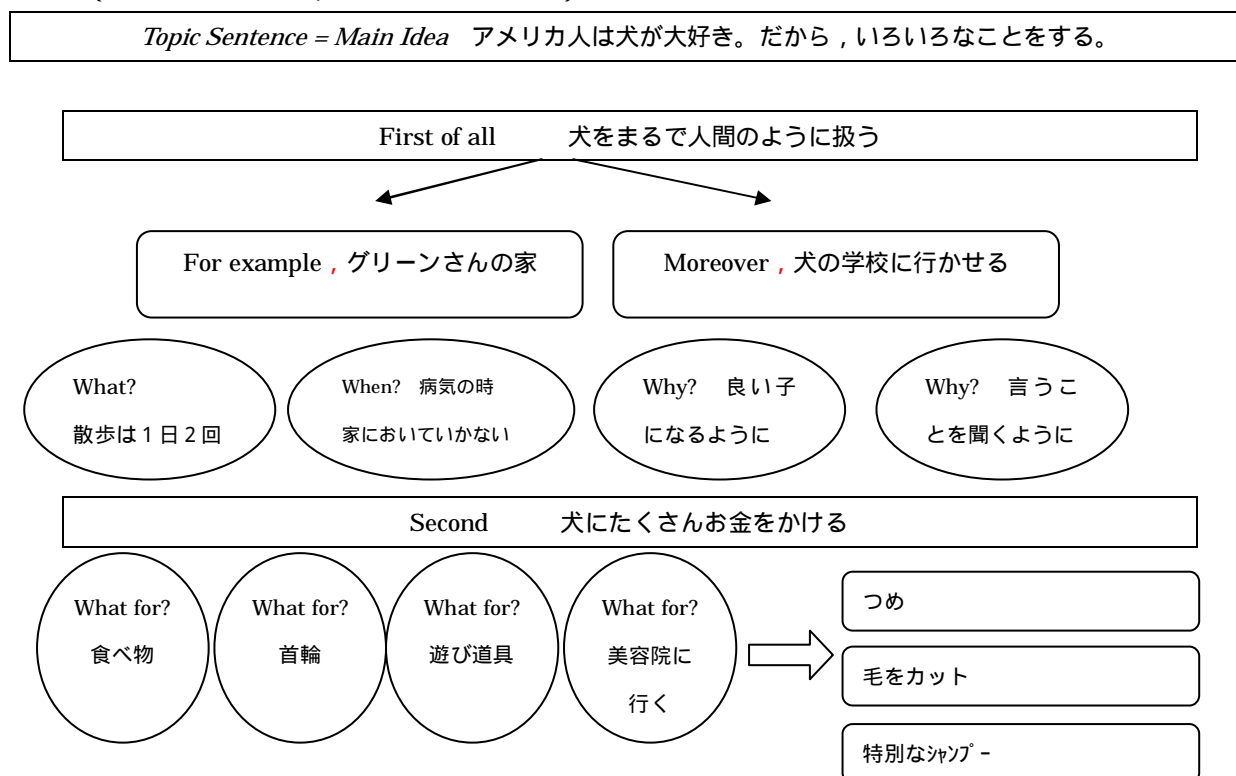
トピックは身近な内容であったが、図を利用して考えをまとめることに、生徒はなかなか慣れることができなかった。どのように表現していいのかわからない生徒もいたため、教科書の英文を利用して自分の考えにあてはめて書くように指導した。当初、主題文、支持文、結論文を書くことのできた生徒は約半数（30名中14名）にとどまったが、その後の手順eのフィードバックによって評価規準の捕捉率は平均5.9個となり、ほぼ全員の生徒がライティングのフォーマットに沿って書くことができた。for example, in briefなどの使用、文法的な誤りの減少、自分の意見を3つまで書くことができた、などの向上が見られた。

第4ステップ終了後、自分の伝えたいことを表現できたか、意見や考えを整理するために図が役に立ったかを生徒に質問したところ、下記のような結果を得た。

伝えたいことが表現できたか（％）		考えを整理するための図は役に立ったか（％）	
18	82	9	91
表現できなかった	表現できた	役に立たなかった	役立った

生徒は、図を使うことによって要点を視覚的に確認しながら論理的にまとめること、教師からのフィードバックによって自分の伝えたいことが表現できたことなどを実感できたものと考察できる。

図1（教科書の内容を、視覚的に整理する）



## 6 検証

### （1）英文の要点をとらえた要約文が書くことができるかの検証

第3ステップの実践1における要点の捕捉率が第2ステップと比べて上昇したこと、第3

ステップの実践2を見ると、要点を捉えるための質問に答えることで、文の概要をとらえた要約文が書けるようになったことが分かる。さらに、教科書からの文の抜き出しにとどまらず、自分の言葉で表現できる生徒が多くなったことも分かる。

## (2) ライティングのフォーマットに沿った要約文が書くことができるかの検証

主題文、支持文、結論文というライティングのフォーマットに関して、ほとんどの生徒が要約文で使うことができるようになった。要点をまとめるためのフォーマット（first, second, third [lastly]）に関しては、その使用を指示した第3ステップの実践1では、ほぼ全員が使用できたものの、指示をしなかった実践2においては、次の表で分かる通り、自発的に使用できる生徒は約半数にとどまった。

	first	second	third [lastly]
使用できた	47%	42%	47%
使用できなかった	53%	58%	53%

また、第3ステップの実践2において段落構成ができているかどうかを検証したところ、次の表で分かる通り、フォーマットの使用度とほぼ同様の数値が表れた。このことから要点を理解して段落を構成する力がつけば、要点を整理するためのフォーマットも運用することができるものと考察する。

	Part 1	Part 2	Part 3	Part 4
できた	47%	57%	48%	21%
できていない	53%	43%	52%	79%

## (3) 自己評価

第4ステップの終了後、質問紙による生徒の自己評価を行った。「あてはまる」を、「ややあてはまる」を、「あまりあてはまらない」を、「あてはまらない」をとする4段階評価とした。

まとまった英文を読んだ後、質問に答えると、文の要点を理解することができるようになった。	22%	53%	19%	6%
質問があると、要点を整理することができた。	11%	70%	11%	8%
質問があると、要点を早くまとめることができた。	17%	31%	44%	8%
フォーマット(first / second / third [lastly])を使った文の構成を理解することができた。	36%	44%	14%	6%
フォーマット使って、ある程度まとまった英文を書くことができるようになった。	8%	50%	28%	14%

## (4) 生徒の変容（自己評価時のコメント）

1学期よりも、読んだり書いたりするスピードが少し早くなった気がする。文をまとめることも、前よりはできるようになったので、今度は自分の言葉で書けるようになればいいと思う。
文を書くのが苦手だったけれど、前より書けるようになった。

プリントの質問を使うと、知らない部分は考えずに、ポイントだけを読み取ることができるので、要点をまとめやすくなった。長文は嫌いだけど、2年の時より、ポイントだけを読み取ろうと努力するようになった。

## 7 結論

本研究では、要点を捉えるための質問に答えるなど、内容を整理するための工夫をすれば、文章の概要を捉えることができる、さらに、要点が把握できている文章については、ライティングのフォーマットを与えれば、要約文を書くことができるだろうという仮説を立てた。

英語に対して「どちらかと言うと苦手・苦手」と感じている生徒は、指導前は、要点をまとめると言っても文を抜き出すだけで、内容やつながりを考えずに書いていた。しかし、要点を捉えるための質問に答えることによって内容の理解が深まり、その結果、生徒は要点をまとめられるようになった。また、要点を整理して書くためのフォーマットを使用できるようになっただけでなく、文と文とを適切につなぐ言葉の運用も見られるようになった。また視覚的な効果によって要点をまとめるための図を利用すれば、自分の伝えたいことを整理して表現することができるなど、図が役に立っていると感じている生徒もいる（約90％）。

こうしたことから、要点を捉えるための質問に答えることに加え、要点をまとめる際に図を利用することは有効だと言える。

生徒が英語で書くということに対して、少しずつ自信をつけ、自分の言葉で書くことができるようになったのである。

## 参考文献

文部科学省 高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 (1999) 開隆堂

大井恭子 『「英語モード」でライティング ネイティブ式発想で英語を書く』 (2002)

講談社インターナショナル

坂本政子 古谷則子 Charles D. Hubenthal (編) 『Thoughts into Writing <パラグラフ・ライティング入門>』 (2002) 成美堂

鈴木信一 『800字を書く力 小論文もエッセイもこれが基本!』 (2008) 祥伝社